

東院関係略年表

721(養老5).	1. 23	元正	佐為王ら16人に執務終了後 東宮 で皇太子（後の聖武天皇）の教育にあたらせることにした。
728(神亀5).	8. 23	聖武	東宮 に天皇が出御し、皇太子の病氣平癒を祈り諸陵への奉幣を行った。
752(天平勝宝4).	4. 8	孝謙	東大寺大仏開眼供養会への行幸にあたり、大納言巨勢奈豆麻呂と中納言多治比広足を 東宮 の留守官、中納言紀麻呂を西宮の留守官に任じた（『東大寺要録』供養章）。
	4. 9		東大寺大仏開眼供養会終了後、天皇は 東宮 に帰った（『東大寺要録』、『続日本紀』は田村第に帰ったとする）。
754(天平勝宝6).	1. 7		東院 に天皇が出御し、五位以上の役人と宴会（後の白馬の節会に相当）を催した（『万葉集』4301番の題詞では、 東常宮 の南大殿とする）。
765(天平神護1).	1. 7	称徳	高麗福信が造宮卿に任じられた（『公卿補任』）。
767(神護景雲1).	1. 18		東院 に天皇が出御し、諸王など51人の叙位を行った。
	2. 14		東院 に天皇が行幸し、出雲国造の神賀詞奏上の儀式を行った。
	4. 14		東院 の玉殿が完成し、役人がみなお祝いに集まった。瑠璃の瓦（緑釉や三彩の瓦）を葺き美しく彩色した建物で、 玉宮 と呼ばれた。
	12. 9		従五位下多治比長野を 造東内次官 に任じた。
768(神護景雲2).	7. 17		修理職の長官・次官を任じた。 この頃（768～770）、石上宅嗣が 造東内長官 としてみえる（西大寺旧境内出土木簡〈奈良市教育委員会調査〉）。
769(神護景雲3).	1. 8		東内 に天皇が出御し、吉祥天悔過の法要を行った。
	1. 17		東院 に天皇が出御し、侍臣と宴会（後の踏歌の節会に相当）を催し、また、朝堂において主典以上の役人と陸奥の蝦夷の宴会を催した。
770(宝亀1).	1. 8		東院 において次侍従以上の役人の宴会を催した。
772(宝亀3).	12. 23	光仁	彗星が現れたので、100人の僧侶を呼んで 楊梅宮 において齋会を行った。
773(宝亀4).	2. 27		楊梅宮 が完成した（高麗福信が造宮卿として造営を担当）。この日、天皇は 楊梅宮 に移った。
774(宝亀5).	1. 16		楊梅宮 において五位以上の役人と宴会（後の踏歌節会に相当）を催した。また、朝堂において出羽の蝦夷の俘囚の宴会を催した。
775(宝亀6).	1. 7		楊梅宮 の後安殿（安殿か）において宴会（後の白馬の節会に相当）を催した（『官曹事類』逸文など）。
777(宝亀8).	6. 18		楊梅宮 の南の池に一本の茎に二つの花のある蓮が咲いた。
	9. 18		かつて藤原恵美押勝（藤原仲麻呂）は 楊梅宮 の南に邸宅を建てた。東西の楼や櫓状の南門など、内裏を遠望できる建物を建てたので、人々の輦蹙をかった（藤原良継の薨伝にみえる）。

（特記したもの以外は、『続日本紀』による）

東院関係主要木簡

- [造東カ]
- 1、
 - ・□□内司運葛一百□ □出小子門
 - ・十月廿八日□□ □小野滋野
 （『平城宮木簡』3、3006号。小子門付近の東一坊大路西側溝SD4951出土）
 - 2、
 - ・鞞負筏麻呂
 - 東内宮守桑□
 - 「家式」桑
 - ・合五人 五月
 - 「五百桑原□□□」
 （『平城宮発掘調査出土木簡概報』15。宮南面西門付近の二条大路北側溝SD1250出土）

※ 東宮、東院、東内は、奈良時代を通じて平城宮東張り出し部南半にあり、皇太子がいる時はその居所「東宮」として、いない時は内裏に準ずる天皇の居所「東宮」「東院」「東内」として利用され、宝亀年間には「楊梅宮」に改造されたと考えられる。